

企業人材育成と教育学

実践と研究の狭間をつなぐ



中原 淳

jun@nakahara-lab.net
<http://www.nakahara-lab.net/>
<http://www.beatiii.jp/>



自己紹介

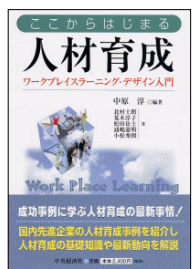
- 所属
 - 独立行政法人 メディア教育開発センター 助手
 - 東京大学大学院 情報学環 客員助手(兼任)
- 教育学 (教育工学・学習科学)
 - ケータイを活用した新しい学習環境の開発

<http://nakahara-lab.net/> <http://beatiii.jp/>

自己紹介


- 企業を対象とした学習研究 / 教育学研究
 - 「ここからはじまる人材育成
ワークプレイスラーニングデザイン入門」
(中央経済社)
 - 最新人材育成事例が満載!
 - 人材育成、教育学の基礎知識が
テンコ盛り!
 - 「企業で役立つ教育学」
(執筆中)



Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

言いたいこと

- 教育研究、学習研究の歴史の中で、**企業内教育・企業人材育成は研究対象**として見なされてきませんでした
- 人材育成担当者と研究者は**パートナーシップ**を結び、**実践的研究**を遂行する**コミュニティ**をつくるべきです
 - 「**実践的研究**」と「**研究に基づく実践**」を推進するべき
 - 大学の先生の講演だけで教育現場は変わりません
 - 事例を語り、吟味する文化をつくる




Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

企業はカネ儲けをする場


企業はカネ儲けをする場だろ！その場を研究するだなんて、ケシカラン！

そもそも教育は人間の全人格を育てるのであって...云々、カネ儲けのために人を育てるなんて不謹慎きわまりない！



eラーニングへの注目は、何人かの教育研究者の関心を変えました。

最近、「**学びの場**」としての**企業**に、**関心**が集まってきているよね。



Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

だから、今が千載一遇のチャンスである

抄 \ (° °) / !!!!

企業を対象とした教育研究を研究分野として確立するチャンス
次世代の人材育成担当者を大学で育てるチャンス

Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

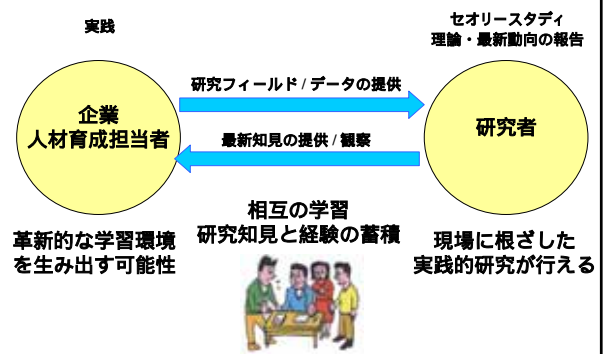
チャンスをもノにするために

- ベタな二点突破戦略
- 1. キッチとした研究論文を書く
 - 大学の中で、正統な研究領域として認知
 - 講座をつくることができる
 - 人材を輩出できる(研究者、実務家)
- 2. 人のココロを魅了する学習環境を生み出す
 - 研究知見を積極的に反映する
 - 学習科学 / 認知科学 / ID
 - 「おっ、研究知見が反映されたステキな場だね」と思わせるような魅力的な事例づくり

Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

7

研究者と育成担当者のパートナーシップ



Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

8

先達の失敗

- かつての教育学
 - 研究者が実験室で「ルール・モノを発見する」
 - 現場に「おとして」、教師に使ってもらい、評価する
 - 講演で教師に一方的に伝えて、実践してもらう
 - 研究者は現場に関与しない、象牙の塔で実験！
 - 教育学者と教師は著しい乖離
 - 完全な失敗
 - 実験室用のルールやモノなんて現場じゃ使えない
 - 実験室は教室じゃない！
 - 教師はロボットじゃない！

Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

9

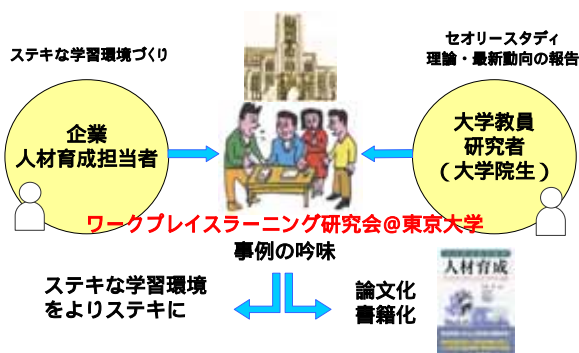
現代教育学の挑戦

- 研究者と実践者の関係
 - 研究者と実践者はコラボレーションの相手
- アクションリサーチ
 - 研究者は現場に積極的に関与
 - 実験室を出よう、生の「教室」をフィールドに
 - 研究知見を現場に積極的に導入する
 - 実践者とともに実践を設計する
 - 実践結果をケースとして吟味しあう

Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

10

こうした場をつくりたい!



Copyright(C) 2004 Jun Nakahara. All rights reserved.

11

課題は山積...

- 研究会の課題
 - どの程度の人に関心をもってくれるか？
 - 参加者はどのように集めるべきか？
 - 研究会を公開するか？非公開性にするか？
 - 会社の実態をどの程度だしてもらえるか？
- 共同研究を行う際の課題
 - 担当者の異動...研究計画、スケジュールがたたない
 - 情報の開示が難しい...激しい検閲が入る
 - 研究費用はどうする？生まれた知的資産は？
 - 使ってる言語が違う(カイシャには隠語がある)
 - 「これだから実務を知らない」「研究を知らない」